

## 研究開発活動

次世代の先端技術を追求するアンリツにとって、研究開発は非常に重要な役割を持っており、当社の競争優位性の源泉となっています。当社は、確かな技術力とキーカスタマーとの密接な関係により、業界をリードしてきました。今後もエンジニアリングリソースの戦略的活用により高付加価値ソリューションを創造し、「利益ある成長」を推進していきます。



ネットワークパフォーマンステスタ  
R&D本部からキーデバイスを事業部に供給

### 研究開発体制

アンリツの研究開発体制は、本社の研究開発部門と、グローバルに展開している事業部開発部門、さらにソフトウェア開発を担当するアンリツエンジニアリング株式会社により構成され、それぞれの部門が求められる役割を果たしつつ部門間の連携を強化することにより、差別化されたソリューションを創造しています。

### 基礎・応用研究

研究は本社R&D本部が統括し、将来の事業と研究の整合を図り、戦略的な研究・開発を推進する体制を整えています。具体的には、中長期的視点で技術動向をとらえつつ、学会やITUなど国際標準化機関への積極的参画により、NGNに移行する通信分野の技術動向を把握しています。また、政府・研究機関が主導する最先端技術開発への参画なども梃子に

して、光・高周波デバイス技術、通信計測用デジタル信号処理技術などを強化しています。さらに、事業部開発部門との間で基礎研究計画と製品開発計画を共有し、製品差別化の源泉となるキーデバイスやテクノロジーを製品に展開する仕組みを構築しています。

### 製品開発

アンリツは、製品群ごとに事業部門をグローバルに展開しており、ワイヤレス計測分野、光・デジタル・IP計測分野、情報通信、産業機械などの開発部門を日本に有するほか、高周波技術に強みを持つ汎用計測分野などの開発部門を米国に、サービス・アシュアランス分野を中心とした開発部門を欧州に有しています。個々の事業部門は、キーカスタマーと密接な協力関係を構築し、市場要求を製品に反映するとともに、R&D本部の研究成果を取り入れることにより、高い顧客満足度と要素技術による差別化を実践しています。また、事業部門間でそれぞれの製品開発計画を共有することにより、グローバルに通用する高付加価値ソリューションが創出されるとともに、複数の事業部門が保有する技術が融合し、他社の追従を許さないユニークな製品を生み出しています。



#### アクセスマスタ

日米の共同開発により、操作性のよい高性能小型計測器を実現。世界各国で光ファイバの施工・保守業務の効率化に貢献



### 外部リソースの有効活用

通信ネットワークのNGN化や携帯電話の高度化に伴って、計測技術の中心は従来のハードウェアからソフトウェアに移る傾向にあり、当社の研究開発活動もソフトウェアの比重が増大する構造変化が進行しています。当社は、このソフトウェア開発を効率的かつ低コストで実現することを重要な経営施策と位置付け、グローバルな視点で外部リソースの有効活用も見据えた開発マネジメントを推進しています。